

京田辺市史の文書調査

米澤千春

1. 京田辺市史編さん事業

京田辺市では 2017 年 4 月から 10 年計画で市史編さん事業を実施している。京都府立大学は、2014 年度から同市と協力して歴史資料調査を行ってきた経緯から、2017 年 7 月に同市と市史編さんの「連携協力に関する覚書」を交わしている。この覚書により、文学部歴史学科が協力し、多くの歴史学科教員および学生・院生が参加し現地調査等を進めている。

2018 年度は、8 月 20 日（月）～ 21 日（火）の計 2 日間にわたり、京田辺市教育委員会他の協力のもと文化遺産学コースの合同調査を行い、各々の専門分野に関する調査を進めた。このほか、文化情報学ゼミでは、大学内においても、京田辺市教育委員会所蔵内の木元家（宮ノ口）と中村家（高木）の庄屋文書の撮影・目録作成等を行っている。

2. 調査参加者

東昇（教員）、竹中友里代（京都府立大学特任講師）、水野拓也（修士 1 回生）、有賀陽平（4 回生）、尾松美早都・酒向あやか・瀨本めぐみ・米澤千春（3 回生）

3. 京田辺市での文書調査

1 日目の調査では、午前草内公民館において近世文書の撮影を行い、午後からは村上泰昭氏（京田辺市郷土史会会長）宅にて所蔵文書の撮影を行った。撮影の後に、近隣にある正覚寺の見学をさせていただき、そこで領主蜷川氏と寺院との関係についての説明をうかがった。

2 日目の調査では、午前大住地区の小田家にて文書の蔵出し作業を行った。搬出作業を行う前に、建物の規模や保管状況等を把握するため、蔵内部を区分けし写真に収め、さらに蔵全体の俯瞰図を描いた。蔵から搬出した文書は、午後から京田辺市立北部住民センターにて一点ずつ付箋を挿入して整理し、全体数の把握を行った（写真 1）。その後、松井地区にある天神

社に移動し、所蔵文書の内、近世関連の文書の撮影を行った。なお、小田家はこの調査を契機に市教育委員会へ寄贈され、現在、公開にむけて整理中である。



写真 1 蔵出しした文書の整理